

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2014・1 vol.448

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉

新年のご挨拶

理事長
学 長 小 川 彰



新年明けましておめでとうございます。

本年は、明治30年三田俊次郎先生が、私立岩手病院、医学講習所、産婆看護婦養成所を開設し、岩手医科大学の基礎を築かれてから満117年を迎えます。

本学は現在、この約120年の歴史の中でも最大の事業となる「総合移転整備計画」が進行中です。中でも、本年はさらに最大の事業となる「矢巾キャンパスの大病院」建築、内丸地区に残す高度外来機能を有する「内丸メディカルセンター」建築の実質的元年となる年です。「矢巾キャンパスの大病院」は平成31年春に運用開始、「内丸メディカルセンター」は平成30年春に試験運用を開始する予定です。従って、今年中には両病院の設計を終えなければなりません。

「現場の意見を聞いてくれない。」とのご不満の声を耳にしています。しかし、現時点では、現場の声を聴く以前の状態だという事をご理解ください。極めて不安定な国の医療政策や医歯薬学・医療が日々進歩発展し変わっていく中、将来の病院がどうあるべきかの「基本構想」を策定中なのです。ICU、CCU、NICU

などの特殊病棟の病床数、手術室が何部屋あればいいのか、医療政策が変わった時、ハードを簡便に変更できる方策など、設計前の作業が続いています。これらを全て決定した後、実質的な基本設計の時期に突入します。この基本構想は3月までに確定させます。

従って、本年4月以降が皆さんの出番です。基本構想のもとで、現場の自由、また、建設的かつ斬新な意見を設計に反映させなければなりません。この仕事も楽なものではなく、この1年は皆様にとっても大変な1年になると思います。未来の大病院は教職員全員で築き上げていくのだという気概を持っていただきたいと思います。

皆様が、本学120年の歴史の中で「歴史が変わる」時期に奉職していることには意味と意義があると思います。本学の歴史上最大の事業に参画する意味を再確認して新たな年を過ごして頂きたいと思っています。

後輩・将来の岩手医科大学のために皆で努力していく事をお誓いし新年のご挨拶と致します。

特集

「岩手医科大学リポジトリ」が始まりました

学務部 図書館事務室 運用係長 川崎 かおる

平成25年10月30日、岩手医科大学リポジトリがスタートし、本学の学術成果を世界に発信しています。様々な枠を超え、グローバルな教育・研究・臨床活動を支えるシステムです。まだ始まったばかりで、これから皆さんによって育てられていく「岩手医科大学リポジトリ」、身近なツールとして是非ご活用ください。

岩手医科大学リポジトリトップページ

<https://iwatemed.repo.nii.ac.jp>

大学HPの「教育」コンテンツまたは図書館HPからリンクできます。



1. リポジトリって何？

機関リポジトリは、各機関の教育・研究などの成果物を集め、国内外に無料で公開するデータベースです。言わば、成果物の保管庫であり、検索サービスの窓口でもあります。

平成25年10月現在、国内のリポジトリ保有機関数は467、世界中では2,818となっています。平成25年の学位規則改正（学位論文のインターネット利用による公表）により更に増えることは確実で、今や大学の必須アイテムです。

2. 何のためのリポジトリ？

雑誌に載っているのにわざわざリポジトリに登録する意味があるの？と思われる方もあると思います。高額な学術雑誌は誰もが必要なだけ入手できるものではなく、本学でも誌代の高騰により止む無く購読中止にした雑誌が数多くあります。有用な学術論文がリポジトリから無料で入手できるようになれば、世界中の学術成果・情報を共有することができるようになり、分け隔てない大きな学術コミュニティが形成できます。発展途上国の研究者にとっては、私たち以上に大きな意義のあるシステムです。このような格差のない学術情報ネットワーク形成のために、10年ほど前からオープンアクセス運動が世界中で広がっており、リポジトリもその一端を支えるものです。

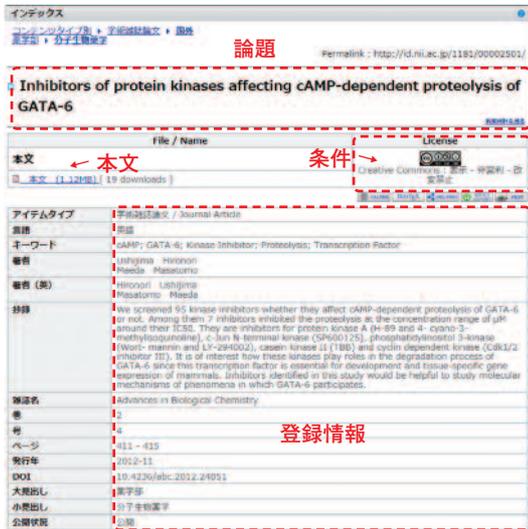
また、学術・研究成果物をリポジトリで発信することは、より広くアクセスされることにより、そのインパクトを高めることにもつながります。先行大学の例*を見てみると、2007年運用開始の岩手大学では、登録データ4,627件に対し、ダウンロード数304万回（うち学外302万回）、2009年運用開始の東京慈恵会医科大学では、登録データ3,562件に対し、ダウンロード数72万回（うち海外48万回）となっており、学外に向けた発信の成果が見てとれます。（*数字は平成25年12月5日現在）

更に、リポジトリは大学のインフォメーションツールとしての役割も担います。大学の業績・成果を並べることで、どんな大学かを知ってもらうこともできるのです。

3. 何を登録する？

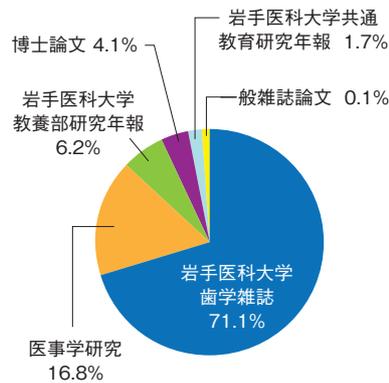
教育・研究活動の成果物として、論文、症例報告、会議録、学会発表記録、著書、報告書、教材、標本など、その他の大学関連資料として、各種報告書、配布資料なども対象となります。公開が難しいものは、非公開としてデータの保管のみに限定することも可能です。

本公開から1カ月、現在の登録状況は、博士論文52件、一般雑誌論文1件、岩手医科大学歯学雑誌 論文等896件、岩手医科大学共通教育研究年報 論文等21件、岩手医科大学教養部研究年報 論文等78件、医事学研究 論文等212件の計1,260アイテムが登録されています。



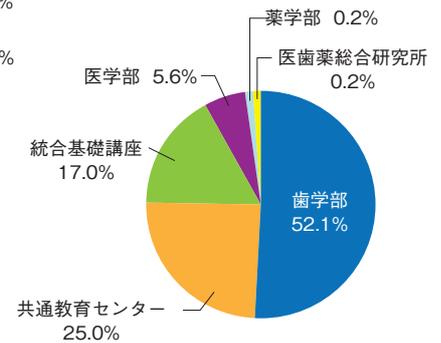
【登録アイテムの表示】

論題を始めとする書誌情報、クリエイティブコモンズ（著作物利用の条件）、本文（または抄録など）へのリンクなどのデータが表示されます。



【登録コンテンツ比】

リポジトリ構築の初期データとして国立情報学研究所よりCiNii登録済みの研究紀要論文データの提供を受けたため、本学関連誌の比率が高くなっています。



【学部別データ比】

本学関連誌データが多いため、歯学部、共通教育センターの比率が高くなっています。

4. 登録するには？

登録に必要なものは、「登録許諾書」と登録する論文などの「コンテンツ」です。ご自分で登録される場合は、最初にユーザー登録が必要です。図書館にお申し込みいただき、交付されたIDでアクセス、登録することができます。図書館に登録を依頼される場合は、必要なデータを添えてお申し込みください。コンテンツは、原則としてPDFファイルを掲載しますが、それ以外のファイルや紙でも加工して登録することができます。「登録許諾書」の様式は、リポジトリHPからダウンロードできます。登録・申し込み方法については、岩手医科大学リポジトリのメニュー画面「登録について」をご参照ください。

5. 著作権は？

出版社や学協会が発行している学術雑誌の掲載論文は、多くの場合、投稿時に著作権が著者から出版元に委譲されています。それぞれの方針に従って許諾手続きを取ることで、リポジトリで公開できるようになります。ただし、出版元がリポジトリへの登録を認める方針を表明している場合、手続きは不要です。欧米の出版社・学協会の94%は、著者の所属機関のリポジトリへの登録を認めています。

著作権ポリシーについては、各出版社・学協会のWebサイトで確認できる場合が多く、それらを一覧できるサイトもあります。リポジトリへの登録に関する方針を色別に分類するなど、わかりやすい内容となっています。

国内：学協会著作権ポリシーデータベース (<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp>)

海外：SHERPA/RoMEO (<http://www.sherpa.ac.uk/romeo>)

調べ方、サイトの見方、その他ご不明な点は、図書館にお問い合わせください。

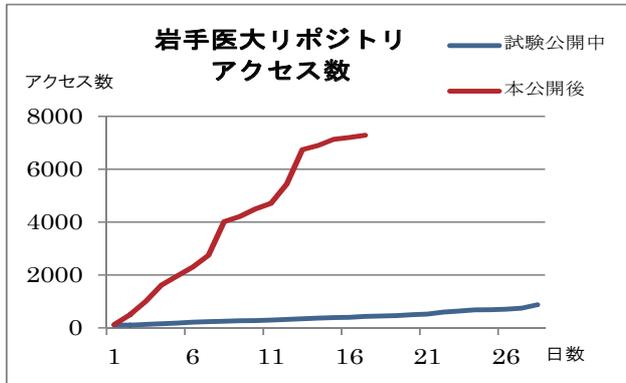
なお、リポジトリに登録しても、著作権の所在は変わりません。

6. リポジトリを活用する

世界中からアクセスできるリポジトリは、大学の教育・活動成果を最もバリアフリーに伝え、社会的な認知を得ることができます。受験生、患者さん、地域の方々、学外の研究者、研究機関に向けて情報発信する機会と手段が整ったということです。岩手医科大学リポジトリに登録するだけで、GoogleやCiNii、OCLCなどを介し、世界中からアクセスされるようになります。既に、7つのサイトにハーベスト登録し、検索対象に岩手医科大学リポジトリ

が加わる機会は確実に増えました。雑誌に投稿するだけの場合に比べ、教育・研究成果の可視性を高め、影響力や被引用率の向上が期待できます。

それぞれの利用頻度は、コンテンツ毎に「利用統計を見る」をクリックして確認することができます。また、全体の利用については、閲覧回数、ダウンロード回数、検索回数上位10件をランキング形式で確認できます。ちなみに、平成25年11月現在、本学で一番閲覧されている論文は、登録第1号の「Ushijima H and Maeda M : Inhibitors of protein kinases affecting cAMP-dependent proteolysis of GATA-6」で96件、一番ダウンロードされている論文は、「朝倉賀子：小児の感染症と川崎病における好中球CD64発現量の検討」（要旨）で22件です。



【試験公開後のアクセス数】
試験公開から本公開までの1カ月で800回だったアクセス数は、本公開後の1週間で2,000回に



アクセス数、ダウンロード数、検索数の多い順にランキング形式でBest10まで表示。

7. まず試してみませんか？

10月末、本公開を前に学内説明会を開催し、2日間で81名の方にご参加いただきました。まだまだリポジトリについてわからないこと、知りたいこともあると思います。図書館では、随時利用講習の申し込みを受け付け中です。出張講習やオーダーメイドでの説明会もご相談に応じます。是非、講座やグループ、個人でもお申し込みください。

今後、岩手医科大学リポジトリ広報大使「めいちゃん」による広報も展開していきます。12月に「Mei通信」1号が発行され、登録第1号論文についてや、リポジトリ豆知識などが掲載されています。めいちゃんのプロフィールもご紹介していますので、まだの方は、是非ご覧ください。岩手医科大学リポジトリのメニュー画面「ニュース・広報」ページで閲覧できます。

成果物の管理と普及、岩手医科大学のブランド力向上、学術コミュニケーションの発展のために、ご理解とご協力をお願いいたします。



【リポジトリ広報大使「めいちゃん」】
これから広報のさまざまな場面に登場します。



【めいちゃんグッズ】
学内説明会終了後、早速登録があり、第1号の方には記念にしおりを贈呈しました。今後もグッズの種類を増やしていく予定です。

● 理事会報告 ●

■11月定例（11月25日開催）

1. 教育職員の人事について
 医学部緩和医療学科
 特任教授 木村 祐輔（前 外科学講座講師）
 総合基礎講座解剖学講座発生生物・再生医学分野
 准教授 藤原 尚樹（前 講師）
 （発今年月日 平成26年1月1日付）
2. 平成25年度給与改定及び12月期末勤勉手当等の支給について

3. 日赤岩手乳児院及び日赤岩手県支部の敷地取得について
 内丸メディカルセンター（仮称）整備計画の第1段階となる日赤岩手乳児院及び日赤岩手県支部の敷地取得に係り、今後のスケジュール等について承認された。
 ・所在地：盛岡市中央通一丁目98番1
 ・取得面積：1,867.91m²
 ・今後のスケジュール
 平成26年4月 土地売買契約書締結
 平成27年3月 土地所有権移転登記
 平成27年4月 日赤建物解体工事開始（約3ヶ月）

表彰の栄誉

菅重典 助教が「優秀論文賞」を受賞しました

この度、2013年日本臨床検査医学会「優秀論文賞」をいただきました。論題は「多白血球血漿を用いたエンドトキシン測定の基礎的研究」です。現在、測定に用いている多血小板血漿には白血球はほとんど含まれていません。しかし、エンドトキシンを持つ細菌や遊離したエンドトキシンは血漿だけでなく白血球に貪食、結合した形で存在します。それら血漿および白血球のエンドトキシン両方を同時測定する方法を考案し、検体資料として適切であることを検討した論文です。現在、臨床研究も進んでおり、現行法よりも敗血症、エンドトキシン血症のスクリーニング検査として有用性を示し、診療にも補助診断として活用している段階です。今後、検体数を重ね発表、論文としていきたいと考えています。また、他の定量検査においても検出感度の上昇が見込まれると考えており、その研究も進めています。

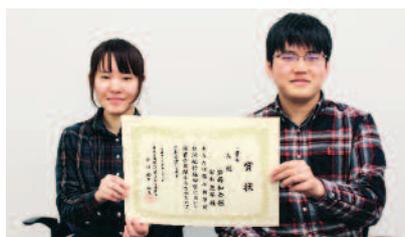
受賞するに当たり、遠藤重厚教授、稲田健也先生、高橋学先生をはじめ、ご協力いただいた多方面の方々に感謝申し上げます。

(文責：岩手県高度救命救急センター 菅重典)



左から：稲田先生、菅助教、高橋助教

医学部1年生 齋藤さん・宮本さんが^{そうぎ}宗祇白河紀行連句賞に入選しました



左から：齋藤さん、宮本さん

【入選作】

- 発句 夕立に見ゆる木草のころかな (宗祇)
脇句 逆さの世界はじく向日葵 (齋藤和奏)
第三 キリキリと引き絞る弓時止めて (宮本晃年)

医学部1年必修科目医学総論で展開中の初年次ゼミ「連句の世界」(平林担当)では、昨年、福島県白河市が主催する平成25年度第7回宗祇白河紀行連句賞〔三つ物〕に応募しました。連句は、前の句から連想されるイメージを次の句に詠み、長句(五七五)と短句(七七)を交互に繰り返す共同作業の文学です。前句の内容を受け止め、付かず離れずの距離感で前句に寄り添って次の句を付ける連句コミュニケーションは、医療者と病者の距離感、チーム医療コミュニケーションにたくさんのヒントを与えてくれます。

宗祇白河紀行連句賞の〔三つ物〕は、与えられた^{ほっく}発句に応募者が脇句(短句)と第三(長句)を付けます。6人のゼミ生が2人ずつペアになって暑い夏に句作り応募しました。その結果、齋藤和奏さんと宮本晃年さんペアがみごと一般の部に入選!全国からの応募総数1,991句の中、なみいる連句のベテラン陣を抑えての快挙です。

入選作は、向日葵の葉っぱに光る水滴をレンズに見立てた脇句の斬新な発想と、第三の哲学的な崇高さの取り合わせが、清新で豊かなイメージを広げる作品となっています。(文責：人間科学科文学分野 平林 香織)

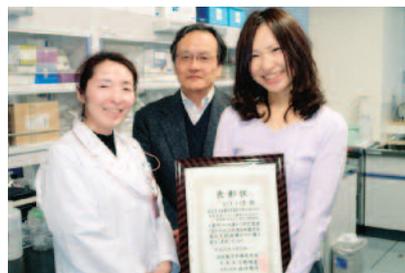
薬学部5年生 佐々木 かな恵さんが優秀ポスター賞を受賞しました

薬学部細胞病態生物学講座5年生の佐々木かな恵さんが、平成25年10月20日に仙台で開催された第52回日本薬学会東北支部大会において優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞演題は、卒業研究テーマである「Caco-2細胞におけるGSK3阻害剤によるGLUT3発現と増殖阻害」です。がん細胞は、栄養源としてグルコースを大量に消費しながら増殖するため、多くのがんでグルコース輸送タンパク質(GLUTs)の発現上昇が報告されています。細胞病態生物学講座では、GLUTsの発現抑制によりがん細胞の増殖を抑える新規抗がん薬の探索研究を行い、ヒト子宮頸がん由来細胞を用いて、GLUTsを高発現するがん細胞選択的に効果を示す新規候補薬物GSK3阻害剤を見出しました。

佐々木かな恵さんの研究は、このGSK3阻害剤がGLUTsを高発現するヒト大腸がん由来Caco-2細胞に対しても有効であることを見出したことが注目されました。

(文責：細胞病態生物学講座 佐京 智子)



左から：佐京助教、北川教授、佐々木さん

医療安全対策講習会が行われました



医療安全対策講習会が、11月29日（金）から6回（録画映像による開催含む）にわたって歯学部棟4階講堂で行われ、職員約1,670名が参加しました。

講習会では、(株)川徳CS推進室の佐々木正美室長を講師に迎えて「百貨店におけるクレーム対応の現状について～お客様の苦情から学ぶ顧客サービス・顧客満足～」と題したご講演を頂きました。

参加者は熱心に聴講し、接遇・応対に関するマナーなどについて理解を深めました。

学内企業研究セミナーが行われました

12月4日（水）、矢巾キャンパス東研究棟SGL教室において薬学部学生を対象とした学内企業研究セミナーが開催されました。本格的な就職活動時期を迎える薬学部学生への就職支援の最大イベントとして、平成22年度から行われています。

セミナーでは、県内外の官公庁や医薬品メーカー、調剤薬局など92事業所のブースが設けられ、薬学部学生が各ブースを訪問して熱心に説明を受けました。また、昨年卒業した薬学部の第一期生も担当者として来校しており、先輩からの話を聞ける貴重な機会となった様子でした。



薬学部特別講演が行われました



12月16日（月）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、薬学部特別講演「国際保健の動向と課題」が行われました。

講師には厚生労働省大臣官房審議官（がん対策、国際保健担当）の牛尾光宏先生をお招きし、薬学部4・5・6年生を対象にご講演頂きました。

会場には300名以上が集まり、熱心に聴講しました。質疑応答では学生から次々と手が挙がるなど、国際保健への関心の高さがうかがえました。

東北3県革新的医療機器等開発事業進捗・成果発表シンポジウムに参加しました

12月19日（木）、東北3県革新的医療機器等開発事業進捗・成果発表シンポジウムが盛岡市内で行われ、本学から小川彰理事長、佐々木真理リエゾンセンター長、研究開発に携わる整形外科学講座 山崎健准教授、泌尿器科学講座 阿部貴弥講師が参加しました。

シンポジウムでは、岩手県・宮城県・福島県で進行している医療機器等開発プロジェクトの進捗状況や成果について発表が行われたほか、今後の開発戦略等をテーマとした総合討論が行われました。



総合討論に参加する佐々木センター長（写真右）

ハーバード大学歯学部学生のExternshipが本学で行われました



12月11日(水)～18日(水)までの8日間にわたり、ハーバード大学歯学部Externship(学外研修)が本学で行われ、同大歯学部の学生3名が来学しました。

研修では、診療科見学や本学歯学部の学生・研究員も参加した症例検討会が実施され、活発な症例発表や意見交換が行われました。

本学とハーバード大学との交流は進んでおり、今後も学生の交換留学が実施される予定です。

写真：診療科見学の様子(左から口腔保健育成学講座 小児歯科学分野 田中教授、補綴・インプラント学講座 澤田助教、ピーター・J・ファンさん、リサ・スーさん、バーナード・W・ポーバックさん)

平成26年新年祝賀式が行われました

平成26年の新年祝賀式が、1月6日(月)に来賓・教職員約200名の出席のもと、創立60周年記念館8階研修室で行われました。

祝賀式では、小川理事長から「今年は移転元年とも言うべき、移転事業の基礎をつくる重要な年です。職員の皆様には、移転事業に関わる機会も増え大変な年となりますが、これまで以上にしっかりとご協力いただきますようお願いいたします。」と年頭のご挨拶がありました。その後は、祖父江副学長により乾杯の発声が行われ、出席した教職員全員が新年を祝い、一年の決意を新たにしました。

なお、式典会場では、一圭会様(医学部第23期生クラス会)よりご寄贈を賜りました演台クロスを活用させていただきました。格別のご理解とご支援に対し、厚く御礼申し上げます。



第117回大学報編集委員会

日 時：平成26年1月16日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：松政 正俊、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、菊池 初子、昆 由美子、佐々木 忠司、畠山 正充、藤村 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子



睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療

●睡眠時無呼吸症候群とは？

睡眠中に呼吸が止まってしまう病気です。睡眠時無呼吸症候群には原因によって中枢性、混合性、閉塞性に分けられますが、歯科での治療は閉塞性睡眠時無呼吸症候群治療が対象となります。原因の多くは睡眠中に舌が気道へと落ちこむことにより気道が塞がり、粘膜の振動がいびきとなります。この気道閉塞が悪化していくと睡眠中の呼吸ができなくなり、夜間に呼吸が止まる状態を度々続けていることとなります。

●睡眠時無呼吸症候群の症状

自分ではどの程度の症状なのか把握しづらく、家族や友人からの指摘により認識することが多い病気の1つです。そのため気が付かずに生活している人も多く存在します。睡眠中の症候としては、いびき、中途覚醒、夜間頻尿などが挙げられます。覚醒時の症候としては日中傾眠、集中力の低下、起床時の頭痛や頭重感、怒りやすくなる人もいます。

症状が重篤になると高血圧や脳血管障害、心不全、不整脈、肝機能障害、肥満などの病態を引き起こすリスクファクターになると言われています。

●歯科での治療

現在の治療では持続陽圧呼吸療法（CPAP）による睡眠中に鼻から空気を送り込む方法が主流ですが、治療法のひとつとして、



写真1

歯科では睡眠中に下顎を前方に出すように設定されたマウスピース（写真1）による治療を行います。このマウスピースは下顎を前方に移動することにより気道を開大させ（写真2）、舌が気道を塞ぐことを防ぎ、睡眠中の「無呼吸」の発生を少なくします。



写真2

岩手医科大学附属病院歯科医療センターでは平成14年から特殊外来として「いびき・歯ぎしり外来」を設立し、睡眠医療科との協力体制のもと診療と臨床的研究を継続しています。

新年も早、1ヶ月が過ぎ、職務にお忙しい日々をお過ごしのことと拝察申し上げます。

昨年はこれまでに経験したことのないような大雨、洪水、台風、竜巻、土砂災害など、天地の事象に身体、心ともに動かされたことが思い出されます。

さて、本年は午年ではありますが、午年の由来や意味を調べたところ、「将来への方向性を定めたり、何かを学んだり挑戦したり、自分のために力を養うのに適した年」というような、ステップアップに備えた年ようです。大学の移転整備計画も着々と進んでいます。私自身もほんの少し、何かに向けてホップしてみたいと思いますが、それを探するのに1年費やすのかも？まずは昨年達成できなかった1日1万歩を目指し動き回りしたいと思います。（編集委員 小山 薫）

岩手医科大学報 第448号

発行年月日 平成26年1月31日
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1
TEL 019-651-5111 (内線7023)
FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7
TEL 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp